＜実践例　３＞　第３学年　　平成３０年１１月　　（今　野　　怜）

１．単　元　　PROGRAM 7　“What is the most important thing to you?”
～世界の子供たちについて考えを伝え合う～

２．単元の目標

（１）関係代名詞のうち、主格の that, which, who について言語の働きを理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる。　（知識及び技能）

（２）発展途上国の話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考えを表現することができる。　（思考力、判断力、表現力等）

（３）積極的に発展途上国の現状について伝え合おうとしたり、自分や他国の子供たちにとって一番大切なものを考え発表しようしたりとする。　（学びに向かう力、人間性等）

３．指導にあたって

（１）生徒観

本学級の生徒は、授業の帯活動として継続的に、相手に自分の意見を伝える活動を行ってきた。活動を通して、話し手は相手に応じてふさわしい表現方法を判断する必要があること、聞き手は相手の発話に応じて適切な反応を示す必要があることを考えてきた。前単元「日本紹介をしよう」では、互いの紹介文を読み合い、もっと知りたいことを質問したり、わからない語句・表現に疑問を投げかけたりすることを繰り返しながら、既習事項を活用して、より相手に伝わりやすい内容の紹介文を模索した。その中で、自分の伝えたいことを、既習事項を用いて表現しようとする力が付いてきた。

一方で、相手に伝わるように話したり書いたりする際の表現を判断する力、相手の意向が理解できたときやできなかったときに適切な反応を示す力、つまり、相手意識が十分ではない生徒は多い。さらに、これまでの意見交流の場面から、学校生活や自分自身のことに関する話題においては、簡単な語句を用いて相手に伝えたり質問に答えたりすることができているが、社会的な話題では、情報となる語句が専門的であり、語句や表現方法をより適切に選択して相手に伝えることに、難しさを感じている生徒が多い。

以上の実態を踏まえて、社会的な話題について相手に伝わるようにより適切な表現を判断したり、相手の意向を捉えたりする力を付けていく必要がある。

（２）教材観

本単元は、「What is the most important thing to you?」という問いから、社会的な話題に関して諸外国の現状を読み取ったり自分達の考えを伝え合ったりすることを意図している。具体的には、山本敏晴さんが創設した国際協力団体「宇宙船地球号」の話を扱う。「宇宙船地球号」の活動の１つであるお絵描きイベントは、絵を通してその国を理解するということを目的として、様々な国の子どもたちが自分の一番大切なものを絵と共に伝えている。生徒はこの話題をきっかけとして、子どもたちの絵や英文から諸外国の現状を読み取ったり、そこで暮らす子どもたちにとって一番大切なものを考えたりするきっかけにしていく。さらに、教科書で得た知識や言語材料を活用して相手と伝え合う発展課題として、様々な国の子どもたちが載っている１枚のポスターについて、現状を読みとり情報やその

子どもたちにとって大切なものを伝え合う課題を設定する。社会的な話題を読むことを通して、事実を基に国際的な視野を持って自分の考えを述べたり、相手意識を持って事実が適切に伝わるように表現を判断したりすることを期待している。

言語材料としては、関係代名詞の主格を学習する。関係代名詞を学ぶことで、人やもの、事柄をより詳しい情報を加えて説明することができるようになる。本単元においては、子どもの状況をより詳しく説明したり、１枚の絵がどのような絵なのか、情報を付けくわえたりする際に用いられる。

（３）指導観　～目指す生徒の姿に近付けるために～

本単元での授業における、資質・能力を発揮している生徒の姿を、以下のように考えている。

社会的な話題に関して、関係代名詞や既習事項を用いて相手に事実や自分の考えが伝わるように表現や語句を判断しながら話している。

英語科では３年間を通して、「外国語を通じて、主体的に人や社会とかかわりを持ち、場面や目的、相手に応じてより適切に伝え合う生徒」の育成を目指している。そのために、本単元では、社会的な話題に関して、得た情報が相手に伝わるようにより適切に表現を判断する力を付けさせていく。

①本単元で付けたい資質・能力

「What is the most important thing to the child?」を、単元を通した問いとして設定する。単元を通して、「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動」（話すこと［やり取り］（ウ））に重点を置いて学習を進めていく。客観的な事実を読みそれを相手に伝える際に、どの情報を伝えるべきなのか、相手に伝わる表現なのかを判断して修正できる力を付けさせたい。そして、この本単元を通じて得たものの見方は、特に全教科共通で重視して育む資質・能力③「場に応じて判断基準をつくる力」を伸ばすことにつながると考える。

②手立て

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

・知り得た情報を相手に伝える目的意識を持たせるとともに、相手に伝わるように表現を判断することができるように、１枚のポスターについてグループで各々異なる情報を読み取らせ、グループ内で情報を伝えさせる。その際に、聞き手が内容を十分に理解できない場合は、何度も情報源に戻らせ、再挑戦させる。

・単元を通して１枚のワークシートに新出表現や学びの気付きを記入させていくことで、表現の高まりを可視化させる。

４．単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①関係代名詞の主格を正しく用いて、自分の考えを口頭で伝えたり書いたりしている。	①発展途上国の現状を聞いたり読んだりして得た情報や表現を基に、事実や自分の考えを、キーワードを用いて述べている。	①関係代名詞を用いて、相手に応じてより適切な表現を選択しながら伝え合おうとしている。

５．学習計画（７時間計画）

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
１．発展途上国の現状について考えを出し合う。（１）	・既習事項や他教科で学習した知識を生かし、１枚の絵を用いて発展途上国の現状を相手に口頭で伝えようとしている。（学びに向かう力、人間性）	・発展途上国について教科での学習を想起させるために、全体で発展途上国についての情報を共有させる。
２．関係代名詞 who を用いて相手に人の説明をする。（１）	・関係代名詞 who を用いて人物についての情報を正確に相手に伝えている。（知識・技能）	・関係代名詞 who の語順、用法を正しく理解させるために、人物の絵を用いて口頭練習を行わせる。
３．関係代名詞 which, that を用いて相手にものや事柄の説明をする。（１）	・関係代名詞 which を用いてものや事柄についての情報を正確に相手に伝えている。（知識・技能）	・関係代名詞 which の語順、用法を正しく理解させるために、絵が表していることを口頭で練習させる。
４．関係代名詞 who を用いた英文を聞き取ったり読み取ったりする。（１）	・山本敏晴さんが「宇宙船地球号」を創設した経緯を正しく読み取っている。（思考力、判断力、表現力）	・概要を正しく読み取らせるために、時間軸に沿って内容の読み取りポイントを与える。
５．関係代名詞 which を用いた英文を聞き取ったり読み取ったりする。（１）	・子供たちの絵に込められた、彼らにとって一番大切なものを読み取る。（思考力、判断力、表現力）	・概要を正しく読み取らせるために、絵についての説明に着目して読み取らせる。
６．関係代名詞 that を用いた英文を聞き取ったり読み取ったりする。（１）	・お絵描きイベントの目的を正しく読み取っている。（思考力、判断力、表現力）	・概要を正しく読み取らせるために、お絵描きイベントの説明に着目して読み取らせる。
７．発展途上国の現状を読み取り、そこで暮らす子供たちにとって大切なものは何かを伝え合う。（本時）	★関係代名詞を用いて、発展途上国の現状や子供たちにとって大切なものを相手により伝わる表現を選択して説明している。（思考力、判断力、表現力）	・相手に伝わるより適切な表現を判断させるために、情報を読み取る際にキーワードをメモさせる。

６．本時の学習活動（７／７）

（１）目　標

発展途上国に暮らす子どもたちについて知り得た情報を、関係代名詞や既習事項を用いて相手に伝わるようにより適切な表現を選択しながら口頭で伝え合うことができる。

（２）展　開

学習活動【学習形態】	目指す生徒の姿	教師の手立て
課題　ポスターに載っている子供たちにとって一番大切なものは何か伝え合おう。		
１．お絵描きイベントの絵から、その子どもたちの一番大切なものを伝え合う。【ペア】	・話し手は既習事項を用いて、相手に十分に伝わる話し方、表現で伝えている。聞き手は、相手の意向が理解できないときに聞き返すなどの手法を用いて聞いている。	・話し手と聞き手の双方が内容を共有していることを確認させるために、発表させた後に聞き手に内容をフィードバックさせる。
２．１枚のポスターについて状況を英文から読み取り、グループで情報を共有する。【グループ】	・自分が読み取った情報を、グループの相手に伝わるようにより適切な表現を判断して口頭で説明している。	・関係代名詞や既習事項を用いてより適切な表現を判断させるために、教師が活動前に例示をしたり、読み取らせる英文にキーセンテンスを入れたりする。 ★相手に十分に内容を伝えさせるために、必要に応じて何度も情報源に戻り読み取らせる。
＜重点を置いた英語科の資質・能力を発揮している姿＞ ★語句や表現方法を判断しながら、相手が十分に伝えたい内容を理解するまで繰り返し説明している。		
３．ポスターに載っている子供たちにとって一番大切なものは何かを考え、話し合う。【個→グループ】	・子供たちにとって一番大切なものを予想し、理由とともにグループで伝え合っている。	・意見に説得力を持たせるために、読み取った情報を基にした事実も理由に含めて話し合わせる。
４.グループの考えを発表し、それに対して質問や感想を述べる。【全体】	・各グループの発表に対して、質問や感想を即興で述べている。	・発表内容を正確に捉えさせるために、発表内容のキーワードをメモさせる。
５．まとめ【個】	・本時に学んだ表現や情報をワークシートに記入している。	・単元を通した学習内容の自覚化を促すために、単元の初めから用いているワークシートに記入させる。

（３）評価とその方法

発展途上国に暮らす子どもたちについて知り得た情報を、関係代名詞や既習事項を用いて相手に伝わるようにより適切な表現を選択しながら口頭で伝え合うことができているかどうかを、活動２，３の様子やワークシートの記入内容から評価する。

７．授業を終えて

【事後研究会より】

○▲より生徒が探究的に学習できるような活動の流れがあったのではないか。具体的には、始めは文字情報がないポスターから内容を想像させ、考えを伝え合わせてから文字情報を提示してもよかった。

○▲教科書の内容（社会的な話題）に重点を置いた単元であった。内容を大切にして授業を展開したことはよかったが、内容と言語材料をいかに結び付けるかに難しさを感じた。内容について考え伝え合うためのターゲットセンテンスであることを生徒に実感させ、関係代名詞を使うことの必要感を自覚させたいと感じた。

▲手立ての一つ一つが、生徒の思考・学びを深めているか、制限しているかを見極める必要がある。例えば、メモをとることが必ずしも表現力を高める手立てとなる訳ではなく、メモをとらずに相手に情報を伝えさせることで、ターゲットセンテンスを引き出せたり思考を深めたりするきっかけとなるかもしれない。

▲本時（本単元）の目標を達成するための学習活動として、その目的を明確にしなければならない。ジグソー・リーディングという手法が、今回の目標達成の手段として適していたかを振り返ることが大切である。

▲グループでの話し合いが、ただ読み取ったことを再現するだけの活動になっていなかったか。つまり、再構築まで至っていなかった。たくさんある情報の中から、自分が伝えたいものをキーワードとして持ちかえるという形もあったのではないだろうか。深まった考えや思いを十分に交流させていくことで、自分の考えや思いが再構築されていく。

【生徒の様子から】

・あるグループでは、聞き手が育っていると感じた。相手の言いたいことを推測して引き出したり、相手から聞いた情報を踏まえて自分の考えを述べたりしていた姿は、グループ学習が効果的に機能している場面であった。

・生徒は英語でのやり取りにこだわっていた。難しい単語を相手に伝わるように言い換えようとしたり、言葉にできないことを他の手段で伝えようとしたりしていた。

・教師がターゲットセンテンスを繰り返し使うことで、生徒は使うべき表現が明確になった。多量のインプットが生徒にとって道筋をつけたのだと思う。

・単元が終了した後に、もっと発展途上国について知りたいという生徒もいて、題材が生かされた単元であった。